



2024年1月号(No.17)  
公益社団法人 日本山岳会  
The Japanese Alpine Club  
東京都千代田区四番町 5-4  
<https://www.jac1.or.jp>

3カ月に一度発行する「山」ユース版では、ユース世代の会員の活躍をご紹介します。ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。

✉ [jacml-yc@jac1.or.jp](mailto:jacml-yc@jac1.or.jp)

【編集担当】  
松原尚之  
滝沢守生  
谷山宏典  
田島圭悟  
新井 梓

## ユース交流会 @ 美濃

昨秋の広島開催に続き、今年は岐阜県の岩場でクライミング交流会を実施。本部含め8支部38名の参加者で大いに盛り上がった。松原尚之ユースクラブ委員長と参加メンバーの後藤健治さん(関西支部)からレポートをいただいた。

### 確実に広がっている、ユースの輪

11月3日～5日の3日間、岐阜県の高木山たかぎやま & 伊木山いぎやまの岩場でユース交流会が開催された。昨年11月の広島での実施に続き、2回目の催しとなったが、本部ユースクラブ、東海、関西、岐阜、広島、東九州、信濃、東京多摩支部から総勢38名の参加者を迎え、昨年以上の盛り上がりの中で実施することができた。今年のユース交流会はクライミングだけで行われ、初日に高木山の岩場でショートルート、2日目は高木山で南稜と北稜に分かれてマルチピッチのクライミング、3日目は伊木山の岩場で登って終了した。

これだけの大人数がクライミングをするイベントを実施するに当たっては、何より事故を起こさぬことに留意しなければならない。昨年広島での交流会初日、メンバーの1人がリード中にフォールし、両足を骨折するという大きな事故を起こしてしまったことは、決して忘れてはならない教訓である。今年ではできるかぎり安全度を高めるために、ガイド資格を有する谷剛士たにたけし、山田利行、松原の3名はガイドという立場に徹し、全体の安全管理に努めるようにした。さらに、ルートによっては少し脆いところもあると聞いていた高木山の岩場をより安全に登るために、この岩場に精通する石際淳いしがわあつしガイドに初日だけ参加いただき、岩場やルートの案内をもらった。高木山の岩場の開拓者である山中豊太郎氏まで顔を出してくれたことはうれしいサプライズであった。

東海支部の高橋玲司れいじ支部長には、絶好の宿泊地で



高木山のゲレンデで。この交流会の後、参加支部同士の交流が続いている

ある桃太郎公園キャンプ場を紹介してもらったばかりでなく、岩場の下見やJA岐阜の駐車利用許可、伊木山の岩場の管理者・安倍氏への挨拶等々、大変に骨を折っていただいた。また、東海支部のみなさんにはキャンプ場での夕食の準備を担っていただいた。この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたい。日中のクライミングもさることながら、桃太郎公園での2夜に及ぶ懇親会は、これ以上ないと思えるくらい盛り上がり、楽しい宴となった。“クライミングレジェンド”池田功理事も忙しい合間をぬって岐阜まで駆けつけてくれたし、カナダ在住である谷剛士、山田利行もゴザフェスに引き続き参加してくれた。そうして各地から集った若い仲間たちと過ごした3日間からは、日本山岳会のユースの輪が着実に広がっていること、そして私たちのこれからへの希望が、確かに感じられたように思う。

(ユースクラブ委員長・松原尚之)

## 刺激的だった各支部との交流

その朝、高木山の麓には、ユースのクライマーがぞくぞくと集まっていた。皆さん力強くキラキラと光って見える。ハーネスにぶら下がるガチャ類の使い込まれた感じが何といてもカッコいい。今日から始まる交流会への期待に胸が弾む。

円陣で松原尚之委員長の挨拶がありスタート。さっそくゲスト参加の石際淳ガイドより岩場の説明を受ける。石際ガイドのブログ「がおる亭」のトポを見ながら各自ルートを下見する。3段目テラスに集まった数人は、谷剛士ガイドがかけてくれたトップロープで1日目のクライミングを開始した。

今日の岩尾根ルートはすっきりとしたチャートで日当たりも良く気持ち良い。2、3本を皆でわいわい言いながら交代で登る。4段目テラスで同じくわいわいと登っていた東九州支部と合流し、ガンバ！ガンバ！と一緒に楽しむ。この日、最後まで頑張っていたのは広島支部。10a や 10bc を繰り返してトライする姿を応援する。

2日目はアルパインの日。北尾根ルート8ピッチをリードで行く。全体的に難しいところはなく、今の自分のレベルでも落ち着いて楽しめた。

出だし数ピッチの傾斜が緩かったので終了点をひとつ飛ばしてロープを長く伸ばしたら、逆に流れが悪くて難儀した。尾根に出たからは昨晚に呑み過ぎたお酒も徐々に引き、クライミングにリズムが出てくる。南稜を登る広島支部メンバーが見える。「おーい！」と声を掛け合いお互い手を振る。2ピッチ上には東九州支部の3名が見える。景色も良く、仲間

達と登る喜びで満たされる。

北尾根は2時間半ほどで終了し、あとは昨日のテラスでのんびり過ごす。先に北尾根を終わった東九州支部は再びショート課題に取り組んでいた。ユースはみんな元気で熱心だ。

今回、2回目となるユース交流会が開催されると聞いて迷わず応募した。今のユース世代は何に関心があってどのような活動をしているのか、また他支部の人は何をやっているのか肌で感じる良いチャンスと思ったからだ。皆さんの岩に対する姿勢や登り方は大きな刺激となった。

そして刺激的だったのは夜の宴会も！ 東海支部が準備して下さった夕食の数々に舌鼓を打ち、自己紹介タイムや出し物披露。みなさんの芸達者ぶりが半端なかった（笑）。

また次回もお会いしましょう！

（関西支部・後藤健治）



高木山のゲレンデで（右から3番目後方が筆者）

### ◎ ユース交流会 2023 開催概要 ◎

日 程：2023/11/3-5

場 所：岐阜県・高木山（美濃加茂市）、伊木山（各務原市）の岩場

参加者：【ユースクラブ】池田 功（理事）、松原尚之、涌嶋 満、直 広明、畠山耕造、神藤駿介、新井 梓 【信（38名）濃支部】高橋湧太、吉岡直樹 【東京多摩支部】山根伸洋、佐々木朗子 【東海支部】高橋玲司、山田利行、谷 剛士、草野駿希、国枝宗央、大槻峻介、河野克来、大西伸幸、竹内 将、鯉江知樹、蒲谷和幸 【関西支部】竹中雅幸、吉村恵利、後藤健治、立野里織（東海支部兼部） 【東九州支部】安東桂三、田所歳朗、橋本 桂 【広島支部】大田由孝、井上紀江、勝田直樹、田中 明良、大野雅樹、奥迫拓也、安松 崇 【岐阜支部】長谷川誠二 【支部所属なし】梶谷恵子

# 東海支部・草野駿希さん、 3,000メートル峰全山人力縦走達成

草野さんの  
全行程表→



東海支部ではユース世代が長期縦走やクライミングに取り組み、大いに活躍している。アルパインクラブ所属の草野駿希さん（24歳）もそのひとり。2022年夏の「北アルプス全山単独無補給縦走」（同年11月号「会報山」に詳報）に続き、今年は国内の3,000メートル峰全山人力縦走（9/8～10/14、37日間）を成し遂げた。

——馬場島から始まり、北ア、途中自転車で御在所岳での「ゴザフェス」参加、南ア、富士山。移動はすべて徒歩と自転車。驚くべき縦走を成し遂げましたね。しかも甲斐駒ヶ岳黒戸尾根は2:45のサブスリー3（スリー 竹宇駒ヶ岳神社～甲斐駒ヶ岳頂上まで3時間を切る）達成という速さ。この縦走に至るまでの登山歴を教えてください。

高校までは水泳が得意で、もともと体力には自信がありました。「ヤマノススメ」という、登山アニメがきっかけで、登山に打ち込むようになったんです。大学でアウトドア研究会に入って登山を始め、その大学が東海学生山岳連盟に加入していたので、学生仲間や東海支部の皆さんと登山やクライミングをするようになりました。夏は唐松岳頂上山荘（2022夏）、北アルプス常駐隊（2023夏）で過ごし、冬は2年連続で妙高にあるスキー場で働いています。

——今回の縦走のアイデアはどうやって？

実は「3,000メートル峰全山人力縦走」は、当会静岡支部の「ミスター富士山」こと、じつかわよしのぶ 實川欣伸さんが50代で完遂されているんです。僕は東海支部が入場ボランティアをしていた今年6月の「夏山フェスタ」（名古屋で開催された山岳関連イベント）で實川さんと知り合って3,000メートル全山縦走のご経験を伺い、自分もやってみたくて強く感じました。實川さんは僕の計画を気にかけて、この行程中の富士山登頂に合流してくださいました。2,232回目の富士登山だったそうです（笑）。そこに、無補給、登攀という要素を組み込むことで僕なりのオリジナリティを出しました。

——37日間、無補給ですから、相当な荷物の量では？

約1カ月分の食料と燃料、途中剱岳で友人とクライミングする予定もあったので、クライミングギア全てを背負って約45キロでした。

——辛さ、うれしさを感じたのはどんな時でしたか？



富士山頂で、草野さん（右）と静岡支部の實川さん。全体を通して行動時間は296時間、登り・下りの標高差はともにも56キロを超えていた

最初の2、3日目が最も荷物の重さを感じたので、辛くなりました。それと、ザックを背負って木曾御岳後に中津川から御在所岳まで約200キロ自転車を漕いだのは辛かった！ よかったのは、大荷物なので、見知らぬ方からもたくさん声を掛けていただけましたこと。SNSで発信もしていたので、応援メッセージもいただきましたし、ひとりで登っているのにひとりじゃない、そんな感覚でした。

——この先の目標を教えてください。

いずれヒマラヤなど海外登山に挑戦したい。無補給にこだわったのはトレーニングのためです。他支部の海外登山計画など、いま身の回りにいくつかのチャンスがあります。そのときに力を発揮できるように、他支部の皆さんとの交流やクライミングの技量アップを図り、3年後くらいには海外登山を成功させたいです。それから、今回は厳密には完全無補給ではありませんでした。途中の上高地でソフトクリーム食べちゃいましたし（笑）、1日実家にも帰っています。だから5年後くらいには完全無補給で再チャレンジしたいですね。

（聞き手・松原尚之、新井梓）

草野さんの Instagram : kusanoki\_alpine  
同 YouTube : ☆草のん☆ペコの山旅日記→



## ユースクラブ News & Topics

### 谷川岳で学生部合同雪上訓練講習会を実施

12月9日から翌10日にかけて、谷川岳天神尾根スキー場で学生部合同雪上訓練講習会が開催された。5つの大学から17名の学生が集まり、講師3名で指導した。今年で3回目の開催となる本講習会の目的は、コロナ禍で活動が衰退してしまったクラブのサポートである。講習内容は、雪上訓練の定番である歩行技術やビレイ技術の講習に加え、雪山でのテント設営と炊事についても講師が細かく指導している。この講習会で学んだ学生達が安全に山行を積み重ねてくれることを切に願っている。

(ユースクラブ、東海大学山岳部監督・杉原一樹)



ツェルトとロープを使った搬送訓練も

### 今年も盛り上がった学生部クライミング・マラソン大会

11月11日に第11回クライミング大会、12日に第59回マラソン大会を実施した。普段なかなか関わらない同じ志を持った仲間との交流を目的とした本大会には、今年も関東を中心とした大学山岳部11校60名を超える学生がエントリーし、コロナ以前のような大変活気のある大会となった。これを好機とし、さらに登山界を盛り上げられるよう励んでいきたい。今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。(学生部・井之上巧磨)

### 富山県警察山岳警備隊隊員による講演会開催

11月9日に富山県警察山岳警備隊による講演会を学生部に所属する大学山岳部員に向けて開催した。内容は安全登山と警備隊への就職について。現役の隊員である中村直弘さんと上智大山岳部出身で警備隊長を務めた柳澤義光さんが登壇した。

改めて計画書の重要性や遭難リスクについて学び直すきっかけとなり、警備隊員への就職についても隊員の経歴を交えながら聞くことができた。実際の救助や遭難に関する質問のほか、富山県警察山岳警備隊を志す学生から就職に関する質問があり隊員から直接意見をもらうことができ貴重な機会となった。会場に集まった学生の中から山岳警備隊員を目指す人が増えれば幸いだ。(ユースクラブ・田島圭吾)

### 房総 Base で支部交流登山 & 忘年会

今年のユースクラブ忘年山行は、千葉支部の施設「房総 Base」を使わせていただき、2日間にわたって日帰り登山+忘年会を実施した。初日は Base 近くの里山歩き、2日目は白狐峠びゃっことうげから房総キャニオンこのこぎりやま～小鋸山～嵯峨山と回るコース。2日とも眺望に恵まれ、とても楽しい山歩きが堪能できた。忘年会は言うまでもなく大盛り上がり。松田宏也支部長はじめ千葉支部の皆さん、福島支部のユースのおふたりも交え、大変有意義な交流となった。今後もこのような企画を続けられたらと思う。

(ユースクラブ・白石延之)



東京、千葉、福島の会員が集い、交流を深めた